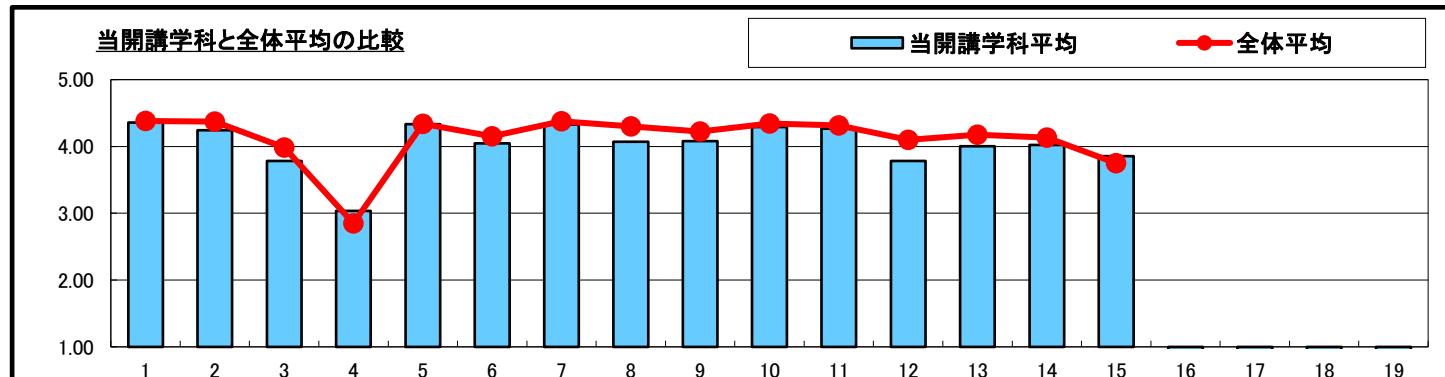


# 2025年度前期 開講学科別集計結果表

常葉大学

開講学科	社会環境学科					履修者数	2,203		
						回答者数	917		
学年マーク		回答者数／構成比 (%)							
1年		2年		3年		4年		無効回答	
262		182		374		99		0	
28.6		19.8		40.8		10.8		0.0	
No.	設問文		平均	回答者数／構成比 (%)					
				5	4	3	2	1	
				とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
▼全学部共通の質問項目									
1	学修環境（プロジェクタ・音響・空調・照明・静謐性）は良好であった	4.36	450 49.2	372 40.7	69 7.5	19 2.1	5 0.5	915 915	2
2	クラスサイズ（受講者数）やグループサイズは適切であった	4.24	431 47.2	342 37.4	81 8.9	53 5.8	7 0.8	914 914	3
3	周りの学生の熱意が感じられた（熱心に授業に参加していた）	3.78	257 28.1	330 36.1	214 23.4	100 10.9	14 1.5	915 915	2
▼学部レベルの質問項目									
4	この授業に対する授業時間外学修にどの程度の時間を費やしましたか（1回の授業の前後）	3.04	2時間以上 126 13.8	1時間以上 2時間未満 202 22.1	30分以上 1時間未満 267 29.3	30分未満 214 23.5	全くして いない 103 11.3	912 912	5
5	シラバスに則した内容の授業が行われていた	4.34	439 48.0	372 40.7	81 8.9	15 1.6	7 0.8	914 914	3
6	この科目の難易度は適切であった	4.05	348 38.1	356 38.9	130 14.2	65 7.1	15 1.6	914 914	3
7	この科目は学部・学科の学びを深める上で有益であった	4.33	450 49.1	351 38.3	88 9.6	21 2.3	6 0.7	916 916	1
8	この科目は自らのキャリア形成や将来を考える上で役立った	4.07	344 37.6	365 39.9	144 15.8	47 5.1	14 1.5	914 914	3
9	【対面授業の場合】 この科目は対面で受講することが適切であった 【ポータルサイト等を活用した授業（オンライン授業）の場合】 この科目はオンラインで受講することが適切であった	4.08	374 40.9	332 36.3	140 15.3	45 4.9	23 2.5	914 914	3
▼教員個人レベルの質問項目									
10	教員の話し方は明瞭で聴き取りやすかった	4.29	464 50.7	316 34.5	88 9.6	30 3.3	17 1.9	915 915	2
11	板書、スライド、配布資料などは適切であった	4.27	447 48.7	331 36.1	88 9.6	38 4.1	13 1.4	917 917	0
12	学生に質問や意見を求める、発表の機会を設けるなど授業への参加を促していた	3.78	288 31.5	315 34.5	176 19.3	96 10.5	39 4.3	914 914	3
13	学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた	4.00	333 36.3	351 38.3	160 17.4	48 5.2	25 2.7	917 917	0
14	必要に応じて学生の受講態度への注意を適切に行っていた	4.02	341 37.4	335 36.7	172 18.9	44 4.8	20 2.2	912 912	5
15	この授業のシラバスを読みましたか	3.85	十分に 読んだ 266 29.0	よく読んだ 386 42.1	どちらとも いえない 150 16.4	ほとんど 読まなかった 91 9.9	全く読んで いない 23 2.5	916 916	1
▼学科設問									
16		-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 917	
17		-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 917	
18		-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 917	
19		-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 917	



## 2025年度前期授業アンケート 学科別集計結果表に対する講評

学科／課程	社会環境学科
講評者	社会環境学科長 河本尋子

設問	講評
設問 1～3 「全学部共通の質問項目」について	学習環境の回答では、約9割がプラスに捉えていたことを確認できました。また、クラスサイズやグループサイズについても、約8割がプラスの回答であり、同様と捉えております。他方、周りの学生の熱意に関する回答では、過半数がプラスと回答したものの、他の項目よりも減少しており、これまで同様の回答傾向が見られています。カリキュラムの改善を図ってきており、今後の回答傾向の変化を注視してまいります。
設問 4～9 「学部レベルの質問項目」について	授業時間外学修では、1時間未満となる回答が過半を占めていました。ただし、定期試験前にはかなりの時間をかけて学修に取り組んでいるようにも見受けられ、また授業科目によっても異なるかと考えられます。シラバス内容や難易度、学部・学科の学び、キャリア形成に関する質問項目では、いずれもプラスの回答が約8割を占める結果でした。但し、学部の学際的特色により、キャリアの具体的イメージ形成にはつながりにくいようです。引き続き、演習等を通して卒業後のキャリアイメージの共有をおこなってまいります。
設問 10～15 「教員個人レベルの質問項目」について	質問項目のうち、学生への対応に関する項目（学生に質問や意見を求める、発表の機会を設ける、学生の反応や理解を確認しながら授業展開する、学生の受講態度への注意を行う等）の回答結果で、前回と同様に、大学全体の平均と比較して、プラスの回答が若干少なくなる傾向が見られました。今後においては各授業科目の受講者数増加が想定され、引き続き、授業参観等を通して、情報共有をおこなってまいります。
設問 16～ 「学科設問」について（該当学科のみ）	該当なし